

## 2

## 17 世紀ドイツにおける医学自然学雑誌の創刊

安西なつめ

日本大学

ドイツ（神聖ローマ帝国）では、1652年にシュヴァインフルトの4名の医師によって、同国で最初のアカデミーである *Academia Naturae Curiosorum* が設立された。創立メンバーは初代会長であるヨハン・ラウレンティウス・パウシュ（Johann Laurentius Bausch, 1605–1665）と、ヨハン・ミヒャエル・フェール（Johann Michael Fehr, 1610–1688）、ゲオルク・バルタザール・ヴォールファールト（Georg Balthasar Wohlfarth, 1607–1674）、ゲオルク・バルタザール・メッツガー（Georg Balthasar Metzger, 1623–1687）である。同アカデミーは1687年に神聖ローマ帝国皇帝レオポルド1世（Leopold I, 在位1658–1705）の庇護を受け、その後幾度かの改称を経て、2007年以降現在は国立科学アカデミー・レオポルディーナ（Nationale Akademie der Wissenschaften Leopoldina）として活動を継続している。この *Academia Naturae Curiosorum* が1670年に創刊したのが医学、自然学分野に重点を置いた雑誌 *Miscellanea curiosa, sive ephemeridum medico-physicarum Germanicarum academiae naturae curiosorum*（以下、『医学自然学報』）（1670–）である。この名称は創刊から1706年までに刊行された24巻に使用され、以後は幾度か名称が変更されたが、現在も学会誌として継続している。

『医学自然学報』には、国内外から各地の医師および大学教授が会員の有無に関わらず報告を寄せており、創刊号にはグダニスク、ヴロツワフ、アウグスブルク、マイセン、ウィーン、ローマ、コペンハーゲンなどの諸都市からの報告が含まれる。創刊号に収録された報告は160題で、病理学、自然学、解剖学、治療学、植物学、外科学、化学、数学の8分野に分類されている。160題中最多数の14題を報告したのはライプツィヒ、モンペリエ、パドヴァなどで学んだヴロツワフの医師ザックス（Philipp Jakob Sachs von Löwenheim, 1627–1672）である。彼は『医学自然学報』の最初の編集者で、各報告に付された注記・注釈の大部分を担った。次いで13題を報告したのがコペンハーゲンのトマス・バルトリン（Thomas Bartholin, 1616–1680）である。当時コペンハーゲンには学術組織がなく、自然科学に関する研究の成果を集約し、定期的に発表する場がなかった。『医学自然学報』は1673年にトマス・バルトリンが自国デンマークで創刊した北欧で最初の学術雑誌『コペンハーゲンの医学・哲学紀要 *Acta medica et philosophica Hafniensia*』（1673–1680）に影響を与えたと考えられる。

『医学自然学報』の創刊は、先立ってイギリスで創刊された『フィロソフィカル・トランザクションズ *Philosophical Transactions*』第5巻68号（1670）で、刊行年と同年に報告された。同報告では『医学自然学報』に収録された内容が簡潔にまとめられており、報告の収録数、図版の枚数などが正確に記されている。また『医学自然学報』に収録された160題のうち、34題の要約が紹介された。

〈本研究はJSPS 科研費20K12908の助成を受けたものです〉